

研究主題

主体的に地域とかかわる生活科の授業

～かかわりから生まれる「自分自身への気付き」をめざして～

要約: 主体的にかかわる生活科の授業は、「対象と直接かかわりあう中で、自分自身への気付きが生まれる授業」であると考え、実践授業を通してその授業づくりの視点とその方法を探った。その結果、「自分自身への気付き」は自分なりのかかわりづくりを繰り返すことを通して、かかわりの変容として現れてくること・友達や他者からの評価活動は、かかわりづくりの推進力となること・児童の表現した文・絵・行動の中の「気付き」からかかわりの変容を見取ることができることが明らかとなった。

キーワード 生活科の特質 自分自身への気付き かかわりづくり かかわりの変容
友達や他者からの評価活動

I 主題・副題設定の理由

生活科は、児童の生活そのものが学習の対象となる。地域とのかかわりの一部分を切り取って学習することにより、主体的にかかわることができるようになることを目指しているのが生活科である。ここで言う、地域とは児童の生活の場である自分の学校・住む町・そして自分の家であり、そこで出会う人・社会・自然であると捉える。

低学年の児童には直接かかわって学ぶことが発達特性からも望まれているにもかかわらず、児童は多くの情報の中にいて間接的に地域を認識していることが多い。

対象に関心を持ち、自分らしい思いを持ってかかわりづくりをする生活科の学習の中で「自分自身への気付き」が生まれる。このことを大切にする授業を行うことで、自分が大好きになって、自分から思いを持ってかかわりを持つとする自信や意欲が培われ、主体的に地域にかかわっていける子になっていけるのではないだろうか。このような授業を目指したいと考え、本主題を設定した。

II 研究の目的

主体的にかかわる生活科の授業をめざすために、「対象と直接かかわりあう中で、自分自身への気付きが生まれる授業」づくりの視点とその方法を明らかにする。

III 研究の方法

1. 授業の視点を探る

生活科の特質を明らかにし、「自分自身への気付き」が生まれる授業づくりの視点を考える。

2. 授業 I を実践・考察する

授業づくりの視点を位置づけ実践を通して「自分自身への気付き」の表れ方を検証し、かかわりづくりを重視した単元構成の重要性を明らかにする。

3. 授業 I を見直し、授業 II を実践する

単元構成の視点に評価活動を組み入れ、それが思いを高めるために有効であるかを検証する。

4. 授業を考察し、結論づける

二つの授業実践から視点について考察し自分自身への気付きが生まれる授業づくりを結論付ける。

IV 研究の内容

1. 生活科の特質

「自分とのかかわり」を重視する

松本は、脳の発達からみると、低学年は外への働きかけとその返しを試す「試し」の時期であるとした。「試し」は「自分とのかかわり」で学ぶことである。^{※1}

生活科は「自分とのかかわりに関心を持つ」ことを目標に掲げている。これは、脳の発達にも合致している。

映し出される「自分自身への気付き」の捉え

気付きを大切にする指導が、平成 11 年の小学校学習指導要領改訂の基本方針として出された。気付きは思考や判断、認識の芽と言えるもので自立の基礎を支えるものとして大切にされる。活動の中で生まれてくる気付きは、自分が実感した気付きである。その気付きには、「自分自身への気付き」が映し出され、

児童の変容が現れる。^{※2} 変容は児童の絵・文・発言・行動などに表現される。

例えば、「うさぎのつめは鋭いから穴を掘るのに都合がいい」という児童の文からは、つめが鋭いという事実と穴を掘るという事実をつなげうさぎの認識ができた自分が映し出されているということである。かかわりづくりの中で自分自身への気付きがあるから児童が変容すると考える。従って、「自分自身への気付き」を見取るには、変容を児童の表現から捉え、変容に至るプロセスも大切にすることが重要である。

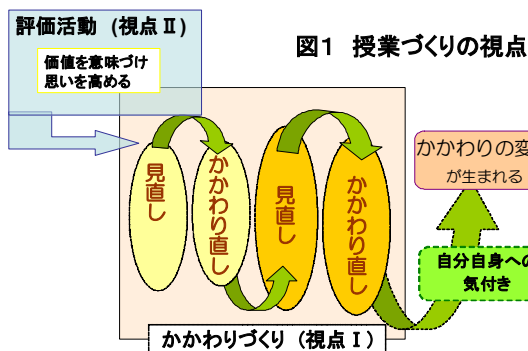
2. 評価活動の重要性

宮本は生活科の評価活動は動的・活動的に捉えなければならず、なによりも「やる気と自信」を生み出し可能性を掘り起こすものであるとしている。児童の具体的な行動や達成度などを値打ちづけることによって「やる気と自信」を持たせ、ますます自己活動の主体にしていくことが教師や他者からの評価活動である。また、児童相互に自己の見方・考え方・感じ方を出させたり、自己の不十分さを修正させたり、共感させたりすることによって、自己を磨きより確かなものにしていくのである。^{※3}

従って、評価活動を位置づけ、「やる気と自信」を持たせることはかかわりづくりを推進していく上で重要である。

3. 授業づくりの視点

生活科の特質と評価活動の重要性から授業づくりを行うときの視点を次のように考えた。



視点I かかわりの変容が生まれるかかわりづくりを重視した単元構成

かかわりづくりは図1に示す「見直し」と「かかわり直し」を繰り返すようにすることである。「見直し」は自分自身にとって持つ意味に気付きもう一度見直すことであり、「かかわり直し」はかかわりに課題を持ち新たな働きかけをすることである。かかわりづくりを通して、児童は自分のかかわりを変容させていく。かかわりづくりを

単元に位置づけ、変容が生まれるようにする。

視点II 活動の価値を意味づけ、思いを高める評価活動

児童が活動への思いを高めるようにすることでかかわりづくりは推進されていく。友達の下さに気付く評価活動や活動の意味付けをする他者からの評価活動はかかわりへの思いを高める。かかわりづくりに思いを持って向かっていけるように効果的に位置づけるようにする。

V 研究の結果と考察


1. 実践Iからの考察

①実践Iの目的

視点I「かかわりづくり」を単元に位置づけ、実践し、児童の変容の表れ方を分析した。

②計画

- ・実施単元 1年「通学路の秘密をみつけよう」
- ・実施時 6月27日から7月4日
- ・単元の流れと視点の位置づけ

時	かかわりづくり(視点I)	活動の内容
1	見直し	楽しみながら推進隊とかかわり、自分なりに対象を見直し、次への課題を持てるようにする  ・紹介 ・クイズ ・模擬体験 ・振り返る
課外登校時	かかわり直し	登校時に推進隊と自分なりのかかわりを繰り返しかかわりを深める ・見つける(確認) ・声をかけられる ・あいさつをかわす・会話をする ・笑顔を交わす・思いを深める ・あいての身を心配する
1	見直し	できるようになったことや分かったことを振り返る 振り返る

③結果と考察

「見直し」の分析

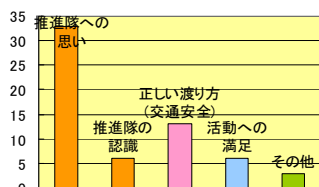


図2 児童の記述の分類とその数

「推進隊の見直し」を促す活動を通じた後のワークシートから、「安全を守ってくれてありがとう」「あいさつをしたい」といった推進隊への思いや認識について多

くの記述が見られた。

「かかわり直し」の分析

推進隊にあいさつ・会話・笑顔のかかわりができ、推進隊からかかわり返しを受けた子のワークシートからは、満足や親しみの思いや、よりよいかかわりの振る舞いが見取れる。図3の記述には、「いつもご苦労

様」と声をかけてニコニコ顔になった推進隊の姿を「よかった(うれしい)」と感じる児童の思いが現れている。

これはできるようになった自分に気付いている姿である。

しかし、推進隊とあいさつしたり会話をしたりするかかわりを重視したため、児童の交通安全に対する気付きを生かすかかわりづくりの支援が不足していた。かかわりへの思いを高める手立てをするとともに、いろいろな気付きを受け止められるようにすることが大切である。

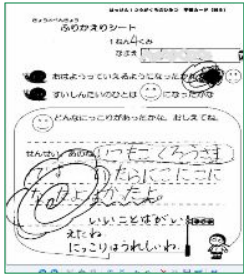


図3 ワークシート例

かかわりづくりによる変容

かかわりづくりを重視した単元構成をすることで児童の対象へのかかわりの変容が見られた。この変容は、次の四つの観点で分類することができる。

表1 変容の観点

変容の観点	内容
思いの変容	対象に対する親しみやよりよい自分の可能性を感じている
認識の変容	新しい認識をする(比較して・事実がつながって・再認識)
表現の変容	絵や文の表し方が変わる
振る舞いの変容	考えられるようになる・できるようになる(身体化)

2. 実践Ⅱからの考察

①実践Ⅱの目的

実践Ⅱでは「かかわりづくり」が繰り返されるように授業を設定し(視点Ⅰ)、「見直し」の場に友達や他者からの評価活動を位置づけ(視点Ⅱ)、児童の変容を分析する。

②計画

- ・実施単元 1年「学校うさぎ、なかよし大作戦」
- ・実施時 10月19日から11月7日
- ・単元の流れと視点の位置づけ

時	かかわりづくり(視点Ⅰ)	学習内容と評価活動(視点Ⅱ)
第一次 ①	学校うさぎに会いニコニコ うさぎと出会い思いを持つ	うさぎクイズ 飼育小屋訪問 うさぎへの思いを持つ 校長先生からの他者評価活動 ベタリンによる相互評価活動
第二次 ③	仲良くになりたい どうしたらかかわれるかを考えることで見直し ・見直し	うさぎと仲良くなる方法を考える ・獣医師との活動 獣医師からの他者評価活動
第三次 ③	なかよし大作戦 かかわりづくりを繰り返す(見直し→かかわり直し)×3	思いを持つ → 実行 → 交流 作戦の立て直し → 交流の場での友達との評価活動
第四次 ①	これからだって仲良くしたい できたことを振り返り、見直し ・見直し	活動を振り返る できたことを知らせる手紙を書く わがしかなかったこと うれしかったこと わがしかなかったこと

③結果

獣医師からの他者評価活動

うさぎと仲良くなるための作戦を考えた後にゲストとして獣医師を招いた。ここでの獣医師は児童の活動への思いの後押しをする存在である。「いいことだから頑張る」と活動の価値を評価し、「分からないことは聞いてね」と助けてくれるのである。獣医師との活動の後のワークシートからは、図4のように活動への自信や「仲良くなりたい」という意欲という思いの高まりが見られ、かかわりづくりへとつながっていった。

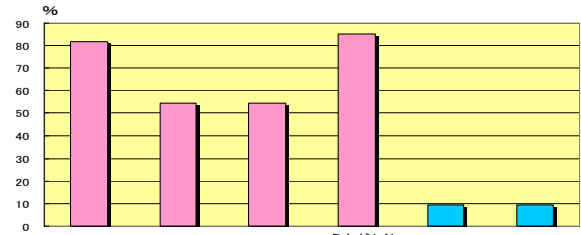


図4 獣医師との活動後の思い

交流の場での友達との相互評価活動

実際にうさぎと触れ合う活動は三回設定した。かかわり直しとその見直しは繰り返すことで児童の変容を促すと考えているからである。友達と交流することは、自分の活動に自信を持ったり、友達の話を通して自分の活動を振り返り新しい触れ合い方に気付いたりして、思いを高め、うさぎとのかかわりを深めていくことができると考え、友達との相互評価活動を設定した。

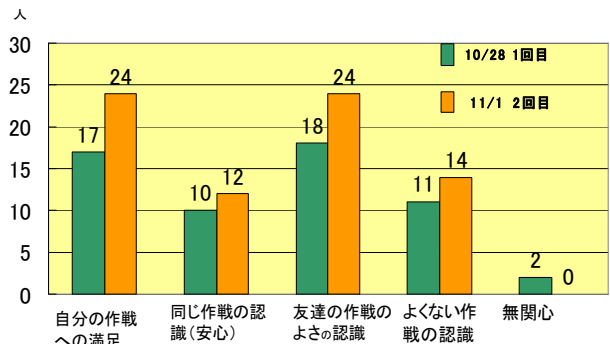


図5 相互評価活動のワークシートの集計

ワークシートにより相互評価活動で児童が得たことを図5に示した。どの項目に付いても1回目(10月28日)より2回目(11月1日)のほうが多くなっている。無関心の子がいなくなったことから、友達の結果を聞き、自分の作戦について見直したり、友達の作戦のよさに気付いたりできたことがわかる。

単元の前後のワークシートから見取れる変容

単元の前後に同じ形式のワークシートでうさぎについて知っていることを絵と文で記述させ、比較・分析した。

i 表現の変容

ワークシートの絵からとらえた児童の大きな変容は、表現の変容である。図6から分かるように約2/3が絵に自分を描いている。うさぎへの認識は、自分がかかわった学校うさぎが「うさぎへの認識」となっていること

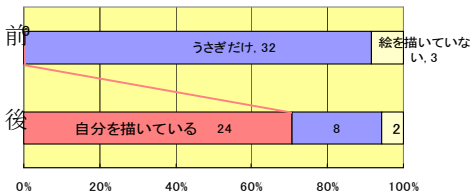


図6 自分を描いている割合の変化

を表している。また、絵の内容についても「立ち上がっているうさぎ」「うさぎの穴」などが描かれ、

豊かな気づきが見取れる。

ii 思い・振る舞いの変容

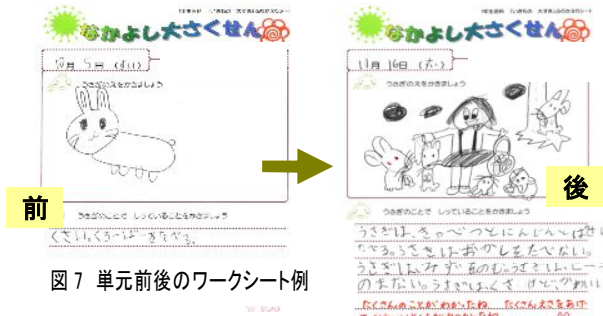


図7 単元前後のワークシート例

図7のワークシートには「くさい」→「くさいけどかわいい」という学校うさぎに親しみを感じている思いの変容が記述されている。この児童は、熱心に餌を用意し、うさぎと触れ合っていた。絵には、自分の持っている餌に寄ってくるうさぎや、立ち上がっている姿も描かれ、うさぎのかわいいしぐさをたくさん発見して、親しみの思いへと変容したことが分かる。

また、他のワークシートからは、「抱っこができた」「撫でることができた」などの振る舞いの変容も見取れた。このような思い・振る舞いの記述は図8に示すように単元前にはなかったが、単元後には見られるようになった。

iii 認識の変容

図8より、認識に関する記述が増えていることが分かる。記述内容を分析すると、「目が横に付いているから逃げるのが速い」「つめが鋭いから穴を掘るのに便利」というような、かかわりから知識をつなげられた質的な変容も捉えることができた。

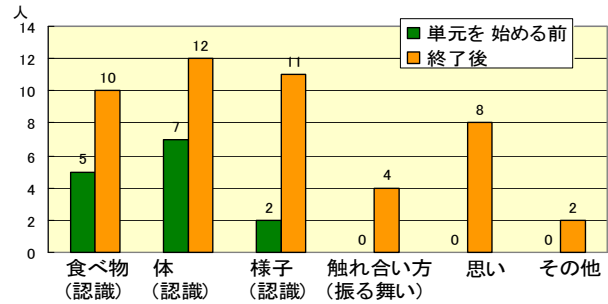


図8 単元前後のワークシートの記述の変容

VI 結論と今後の課題

「対象と直接かかわる中で、自分自身への気づきが生まれる授業」は、かかわりづくりを通してかかわりの変容が生まれる授業である。

かかわりづくりは価値に気づき自己を見直す「見直し」と思いをもって「かかわり直し」をする過程の繰り返しのことである。これを意図的に授業に位置づけることが、児童のかかわりの変容を促す。

さらに他者と出会わせたり、友達と交流したりして評価活動を行うことは、かかわりづくりの推進力となる思いを膨らますことに有効な手立てとなることが実践を通して分かった。

このようなかかわりの変容は、振り返りの絵や文、発言や行動に現れる。変容の四つの観点で児童の表現を見取ると同時に「自分自身への気づき」も見取ることになる。四つの観点とは、・思い・認識・表現・振る舞いの変容である。この観点は児童のかかわりの変容を見取るために有効である。

かかわりの変容によって、児童はできるようになった自分のよさを感じ、自信を持って地域にかかわっていくことの楽しさを実感できる。このことが主体的にかかわることの価値を児童に気付かせていくはずである。

本研究で捉えたかかわりの変容は生活科の評価の観点の「気づき」にあたる部分である。かかわりづくりは意欲に支えられている。また、思考し、表現するなかで現れてくるかかわりの変容は、「関心・意欲・態度」の評価観点や「思考・表現」の評価観点にも関係が深いと考える。今後は、生活科の評価の3観点とかかわりの変容を比較し関係付け、さらに研究を進めたい。

*1 松本勝信編 生活科授業の創造と実践 教育情報研究所 (平成5年3月14日)

*2 小学校学習指導要領解説 生活編 (平成11年5月)

*3 宮本光雄 生活科の理論と実践～授業づくりから評価まで～東洋館出版 (平成2年11月1日)